



福祉のまちづくりのための施設整備
バリアフリーガイドライン 別冊

当事者参画によるバリアフリー 取組事例集(案)

『当事者参画』とは.....	1
はじめに.....	1
本ガイドラインの対象施設.....	1
『当事者参画』の意義ともたらす効果.....	1
当事者参画導入の留意点.....	2
当事者参画の取組事例① 万博ユニバーサルデザインガイドライン.....	3
当事者参画の取組事例② 大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン.....	7
当事者参画の取組事例③ 大阪・関西万博 日本館.....	12
当事者参画の取組事例④ 関西国際空港.....	17
当事者参画の取組事例⑤ 大阪府堺市 公共施設等のバリアフリー化推進協議.....	21
当事者参画の取組事例⑥ 大阪府豊中市 市有施設の建設時における当事者参画.....	23
当事者参画の取組事例⑦ 兵庫県 チェック&アドバイス制度.....	25

『当事者参画』とは

はじめに

年齢、性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての利用者にとって使いやすい施設を整備するためには、バリアフリー法や大阪府福祉のまちづくり条例に基づく基準、望ましい基準や配慮等を示すバリアフリーガイドラインによる整備を進めることにとどまらず、建築プロジェクトの構想、設計、施工、維持管理・運営の各段階において、施設利用者が参画して施設固有の事情や立地に対するユーザビリティを確認しながら、検討・整備を進めることが有効です。

令和7年5月に国土交通省が策定した「建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン」では、当事者参画を進める上での基本原則のほか、具体的な企画の進め方、実施する際の留意事項、各段階における具体的な実施内容が示されています。

本書では、国土交通省のガイドラインを補完し、当事者参画により整備が進められた具体的な事例を示すことで、当事者並びに建築主（発注者）、設計者、施工者、施設管理者及び施設運営者における当事者参画の重要性の理解増進を図るとともに、建築プロジェクトにおける当事者参画の自発的な実施を促進することを目的としてとりまとめたものです。

施設整備・運営に携わる皆様におかれましては、国土交通省のガイドラインと併せて本書を参考にし、「当事者参画」に取り組んでいただければ、ご理解・ご協力をお願いいたします。

本ガイドラインの対象施設

本ガイドラインの対象となる建築物は、公共、民間に関わらず、不特定多数の者が利用する建築物または主として高齢者・障がい者等が利用する建築物を対象としています。

例：庁舎等の事務所、劇場、集会場、スポーツ施設、病院、福祉施設 等

なお、その他の建築物においても、利用者の特性等を勘案し、可能な限り本ガイドラインを踏まえた検討を進めることが大切です。

『当事者参画』の意義ともたらす効果

当事者参画とは、建築プロジェクトのプロセスにおいて、当事者が意見表明すること、当事者間で意見交換すること、ワークショップ等に参加すること等を通じて、施設の整備・運営の完成度を高めることに関与することです。

建築プロジェクトの各段階で当事者参画が実施されることが望ましいですが、まずは、どんなことからでも取り組みやすい当事者参画を始めることが重要です。

設計・計画段階での当事者参画が進むことで以下に示す効果が期待できます。

- 当事者と事業者等の相互理解（必要性和課題の理解）が深まることにより、多様なニーズを反映した納得感のある質の高い施設整備につながる。
- 事業者等にとっては、多様な方々のニーズに対する理解が深まる。
- 当事者にとっては、施設整備の全体像や施設整備に係る制約（建築条件、法令等の制約、予算、工期等）に対する理解が深まる。
- 当事者間でニーズが一致しない場合に、当事者参画のプロセスを通じて、相互理解が深まる。

当事者参画導入の留意点

当事者参画の仕組みを導入する際の主な留意点を以下に記します。

- 多様な当事者の参加の確保
 - ・障がい種別や年齢等、異なる複数の当事者に参加いただき、特定の視点への偏りを防ぐ。
- 情報保障の補助する仕組みづくりの構築
 - ・手話通訳や要約筆記、点字資料等による情報提供により、誰もが平等に議論に参加できる環境を整備することで参画の質を高める。
- ソフト整備の検討
 - ・ハード面の整備だけでなく、比較的導入しやすい情報提供等のソフト面についても積極的に検討する。
- 安全・快適な議論空間の整備
 - ・会場のバリアフリー対応に配慮する。(段差解消、誘導サイン、人的サポート等)
 - ・対面のみでなく、オンラインで参加できる環境を整え、移動負担を軽減する。
- 当事者参画のプロセスの発信
 - ・検討の流れやプロセス等を関係者や一般に公開することでさらなる普及を促進する。
- 継続的改善（スパイラルアップ）の仕組み
 - ・継続的な改善を重ねることで、より質の高いバリアフリー環境の実現を目指す。

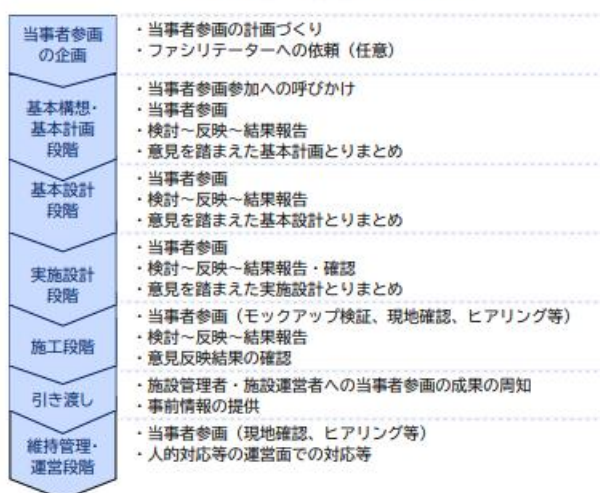
建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン（国土交通省）

令和7（2025）年5月公表



- 建築プロジェクトにおける当事者参画を促進することを目的として作成・公表
- 当事者参画の基本原則のほか、企画段階から維持管理・運営段階に至るまでの具体的な取組内容や留意点等がまとめられている

図 事業段階と当事者参画の取り組み



出典：高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準

【別冊 建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン】

<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/content/001892108.pdf>



万博ユニバーサルデザインガイドライン

大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマと「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインコンセプトを踏まえ、すべての来場者にとって、より利用しやすい博覧会会場を実現するため、障がい当事者や学識経験者等の意見を伺う検討会を開催するとともに、Tokyo2020 アクセシビリティガイドライン等昨今の事例を参考に、議論や知見を反映し、ユニバーサルデザインガイドラインの改定を行った。

概要

- 目的：性に関する概念がより複雑で多様であることが認識され、単なる「性別」から性に関する多様性を包括的に表現する枠組みである「SOGIESC（ソジエスク）」へと発展する中において、国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無に関わらず、誰もが安心・快適に楽しみ、安全に避難できる万博会場を実現するための環境整備の実現を目的として、施設整備に関する共通の基準と考え方を示したもの。
- 作成：2025 年日本国際博覧会協会
- 経緯：2021 年 7 月に「施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン」を制定・公表。
2022 年 3 月に国際パラリンピック委員会の原則や東京 2020 オリンピック・パラリンピックのアクセシビリティガイドラインを踏まえ、障がい当事者や専門家との共創によって全面改定。



出典：施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン【改定版】
(2025 年日本国際博覧会協会)

客席に関する検討会

参加メンバー

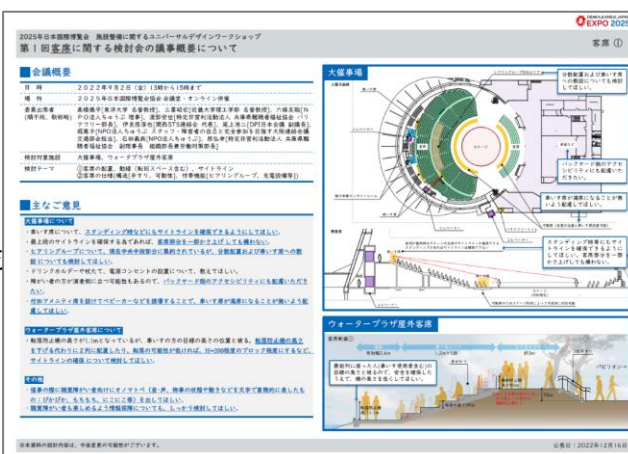
学識経験者・聴覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計 10 人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全 3 回

概略

- 座面高さ、車椅子席への動線の検討、通路やスロープに人を立ち止まらせないための人的対応等の検討
- 平土間部分に必要な席数分の車椅子スペースを国際シンボルマーク等で明示するなどの検討（だれが見ても車椅子使用者のスペースであることがわかるように）
- サイトライン、車椅子席の分散配置、ヒアリンググループの導入、階段段鼻の輝度比



出典：2025 年日本国際博覧会施設整備に関するユニバーサルデザインワークショップ第 1 回客席に関する検討会の議事概要

エレベーター／エスカレーターに関する検討会

参加メンバー

学識経験者・視覚障がい者・聴覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計11人

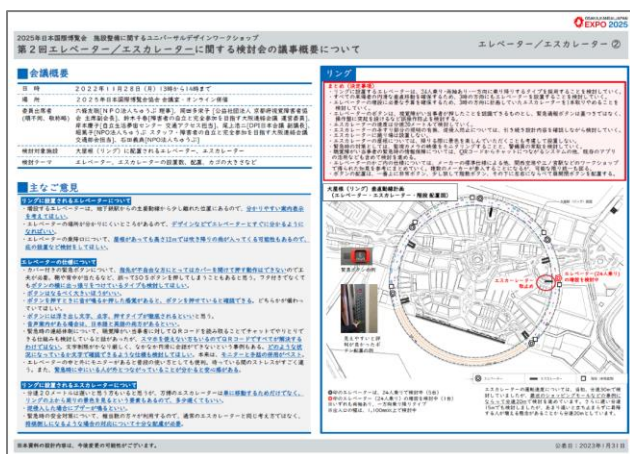
実施方法・開催数

ワークショップ形式 全2回

概略

- エレベーターの仕様、円滑な垂直移動の確保のための設置方針、ボタンの操作性等について検討
- エスカレーターの速度や手すり部分の照明、逆侵入防止等、安全対策について検討
- 緊急時に備えた対策の検討
- 大屋根リングのエレベーターを1箇所追加設置

出典：2025 年日本国際博覧会施設整備に関するユニバーサルデザインワークショップ第2回エレベーター／エスカレーターに関する検討会の議事概要



カームダウン/クールダウンスペース

参加メンバー

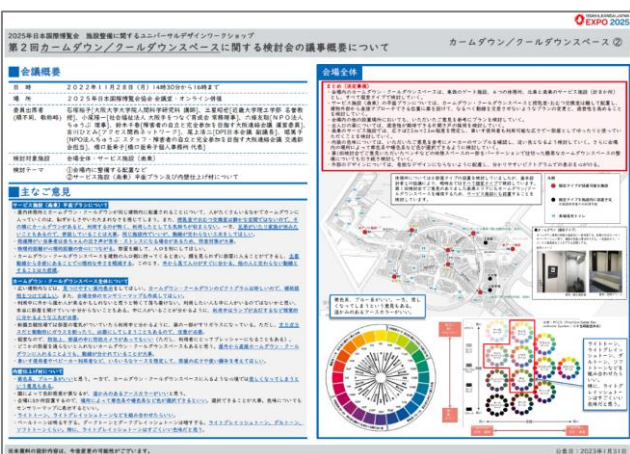
学識経験者・身体障がい者・精神障がい者・各障がい者支援団体 計10人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全2回

概略

- 8箇所の休憩施設についてはすべて個室タイプかつ会場内分散配置、また一部車椅子で利用可能な広さを確保
- カームダウン・クールダウンスペースと授乳室・おむつ交換室は離して配置
- 内装の色は場所によって選択できるよう検討
- 外部デザインはわかりやすいピクトグラム表示
- ガイドラインに基づく調光



出典：2025 年日本国際博覧会施設整備に関するユニバーサルデザインワークショップ第2回カームダウン/クールダウンスペースに関する検討会の議事概要

トイレに関する検討会

参加メンバー

学識経験者・視覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計 11 人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全3回

概略

- 主要動線からの誘導方法についての具体的検討
- トイレ前の触知案内板は中のレイアウトがわかるように
- 省スペースのトイレ内の誘導方法
- 機能分散の有効活用を考えた、扉へのサイン表示、床へのサイン設置
- 床材を変えた注意喚起、ベンチの設置箇所等
- バリアフリースペースの出入りに大型ベッドが干渉しないレイアウト
- 大便器の男女比をスフィア基準（1：3）同等に設定、男性用大小便器比は日本サッカー協会スタジアムの基準を参考に概ね 1：2



実物大図面での確認の様子

出典：2025 年日本国際博覧会施設整備に関するユニバーサルデザインワークショップ第3回トイレに関する検討会の議事概要より抜粋

移動/案内/誘導

参加メンバー

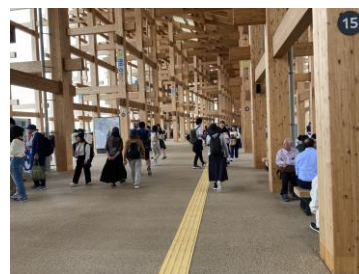
学識経験者・視覚障がい者・身体障がい者・精神障がい者・各障がい者支援団体
計 14 人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全5回

概略

- サインが設置される足元に植栽帯を設けないことや屋外のサインの見つけやすさ
- 会場全体の主動線に視覚障がい者誘導用ブロックを設置
- ひらがな表記は、行動起点となる広場名称に対して併記
- コントラストにも配慮したカラープラン
- 必要な情報、視認距離、文字サイズを確保しつつ
大きくなり過ぎず調整、
遠方からでもよりサインを認識しやすいデザイン
- 施設誘導サインに距離表記
- 暴露試験を実施し、色あせに配慮



大阪・関西万博：大屋根リング内の主動線に設置された視覚障がい者誘導用ブロック

スケジュール

[illegible]

大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン

大阪ヘルスケアパビリオンは、REBORN をテーマに 500 以上の企業や団体、府・市が一丸となって出展し、550 万人もの来館者が訪れた。出展にあたっては、「いのち輝く未来社会」「SDGs 先進都市」の実現に向けた貢献として、ユニバーサルデザイン（UD）への考え方や発想を変える取組にチャレンジした。

概要

●建築諸元

- ・敷地面積：約 10,500 m²
- ・延べ面積：約 9,725 m² (本館棟、XD HALL、バックヤード棟)
- ・階数/高さ：地上2階建て/最大 20m



●体制とプロセス

- ・2022年3月にUDのエキスパートとして石塚裕子先生を招き、様々なお困りごとのある当事者へのヒアリングをスタート
 - ・2023年3月には、当事者や作り手となる企業とともにUD推進チームとして団結
 - ・「進め方がユニバーサル」という考え方のもと、「みんな一緒に」を大切な視点として取り組んだ＜UD推進チームのメンバー＞
 - ・エキスパート：石塚裕子先生（東北福祉大学）
 - ・お困りごと当事者：車椅子使用者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、LGBTQ、医療的ケア児、子育て世帯
 - ・作り手企業：みんなトイレに協賛した企業（TOTO 株式会社、株式会社シブタニ、株式会社サイエンス）
 - ・展示・建築・運営の業務受託者：乃村工藝社・三菱UFJリサーチ&コンサルティング共同企業体、株式会社東畑建築事務所、株式会社竹中工務店
 - ・事務局：公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン
- 
- 



取組ポイント

①進め方がユニバーサル

- ・建築基本設計当初に、当事者に対して建築設計に必要なヒアリングを実施。ヒアリングでのコメントを踏まえ、初期段階から、建築だけでなく、楽しめる展示や安心安全な運営、会期中の検証、会期後の発信までトータルでの取組むことを方針とし、全体スケジュールを設定のうえ取り組んだ
- ・これまで届かなかった「小さな声」も反映できるよう、より多様なお困りごと当事者をメンバーとして人選した
- ・これまでの検討の場では専門家が作成した素案に対して各当事者が意見や要望を伝えるプロセスが多くとられていたが、お困りごと当事者メンバーに加え作り手企業や展示・建築・運営受託者もワークショップに参加して、お困りごとを共有し、正解のない課題に対して建設的に質問や提案等の対話を進め、「成解」をいっしょに考えた
- ・当事者が参加しやすいワークショップの準備と進行を工夫した



「UD 推進チーム」ワークショップ等の開催一覧

※開催方法 対：対面 オ：オンライン

年度	ワークショップ等	年月日	開催※	共有	移動	トイレ	カム	展示	運営	情報	内容
2021	当事者ヒアリング	移動①	22/3/8	オ	●						移動：館内の移動計画(EV、スロープ等)
		トイレ①	22/3/8	オ	●						トイレ：平面計画(機能分散等)
		移動② トイレ②	22/3/14	オ	●						移動、トイレの内容
		カムダウン・クールダウン①	22/3/14	オ	●						カムダウン・クールダウン：部屋、設備
		移動③ トイレ③ カムダウン・クールダウン②	22/3/25	オ	●						移動、トイレ、カムダウン・クールダウンの内容
2022	ヒアリング意見とりまとめ報告	22/6/15	オ	●							当事者ヒアリングでの意見とりまとめ
	みんなでトイレプラン作成 チャレンジ	22/8/29	対			●					トイレプランを福笑い方式で作成
	トイレプラン案の説明と 意見ヒアリング	23/1/30, 2/6, 8, 16	対 オ		●	●	●				トイレプラン案の提示／移動経路、避難 計画/カムダウン・クールダウンの設計内容
	展示イメージのヒアリング等	23/3/29	対	●	●	●	●	●			展示イメージのヒアリング／移動、トイレ プラン、カムダウン・クールダウンの報告／UD 推進チームの発足
2023	展示計画等の説明と 意見ヒアリング	23/10/24 , 11/7	オ			●		●			トイレ案内誘導ワークショップの事前説 明／ポッドデモ機検証の進め方／展示イ メージのヒアリングまとめ／企業展示の UD 検討手順書
	カムダウン・クールダウンの 設備等の確認	23/11/30	対			●					位置、大きさの確認と壁や家具の仕様の 検討
	みんなトイレの原寸床表示での 案内誘導サインほかの確認	24/2/29	対			●	●				トイレの案内誘導や使い勝手の原寸大検 証／トイレの名称／カムダウン・クールダウンの 仕様
2024	ポッドやライドの モックアップ検証等	24/5/28	対			●		●			展示体験の原寸大での確認／トイレのサ イン・並び方
	視覚障がい者個別ヒアリング	24/7/ 8, 9, 11	対			●		●			展示を楽しめるか (5/28 の再確認) トイレのサイン・並び方 (5/28 の再確 認)
	情報保障等	24/10/15	対			●		●		●	ホームページで提供する事前情報／展示 の検討報告／トイレの入口サインと満空 表示
	アテンダント研修の進め方	25/2/14, 19	オ						●		座学研修と現地研修の進め方
	ナビレンスの現地確認	25/2/22, 3/8	対					●			ナビレンスコードの設置位置と音声テキ ストの現地確認
	アテンダント研修 (座学)	25/3/18	対						●		多様性の理解や求められていることを当 事者から学ぶ
	アテンダント研修 (現地)	25/3/27	対						●		現地で当事者から学ぶ
2025	会期中の確認	25/7, 8, 9	対	●	●	●	●	●	●	●	想定した使われ方が来館者にとって使い やすいかを現地確認
	取組成果の確認 (予定)	26/3/2	対	●	●	●	●	●	●	●	これまでの取組の記録と成果



POINT

- ・ 論点を明確にするなどわかりやすい資料づくり、ゆっくりと簡潔な説明
- ・ 班分けにより十分な発言機会を確保。事務局も班に参加し、疑問点等へ細やかに対応
- ・ 視覚障がいの方には音声で確認できるよう資料をテキスト化し、図面は立体コピーを事前に送付。動線の説明には模型を活用
- ・ 聴覚障がいの方には UD トークの準備や手話通訳者を配置
- ・ 日程が合わない方向けに同内容のワークショップを別途できる限り開催
- ・ 当事者の参加に要する経費（報酬及び交通費）の予算確保
- ・ ワークショップ会場までの車椅子使用者が利用できるルートの作成
- ・ 最寄駅からワークショップ会場まで視覚障がいの方を誘導



班を分けて対話を進めるワークショップの様子



模型による説明

② ハードからソフトへの引継ぎ

- ・2階への移動手段はみんなが同じルートで楽しめるよう自走式カートからリフトライドに変更した
変更により、車いす使用者向け等の別枠予約の設定が不要となり、優先レーンも設けない運用を可能とした
- ・アテンダント研修に当事者と対話するカリキュラムを設けた。研修を経て、アテンダントはマニュアルでは伝わらないお困りごとや寄り添い方への理解が深まり、お困りごとのある人に対し積極的に声掛けができた
- ・運営担当がハード検討の段階から、また展示・建築担当は運営のワークショップに携わった。その結果、設計から運営に至るまで、お困りごとに寄り添った検討や現場対応ができた。



リフトライドの様子



アテンダント研修の様子



③ 取組のシンボル「みんなトイレ」

- POINT**
- みんなが自由に選んで自然に使える、既成概念を変えるトイレの実現にチャレンジ
 - 当事者や作り手企業等、みんなでお困りごとを共有し、いっしょに「成解」を考える

進め方

- ① トイレのお困りごとを知る
 - ・ ヒアリングの場やショールームでの確認を通して、例えば、車椅子使用者の方それぞれにお困りごとが違うことや、まわりには気づかれにくいお困りごとがあること等を知ることができた
- ② みんなでトイレプランを考える
 - ・ ワークショップ参加者が3班に分かれ、トイレブース等のパーツを使った福笑い方式でレイアウトプランを考えた
 - ・ 3つのプランに込められた想いをもとにコンセプトとプラン案を作成した
- ③ 使いやすさを確認する
 - ・ 実物大の図面を床に広げ、機能が分散されたトイレブースをどのように選ぶのか、混雑時の並び方や空いたトイレブースに自分が必要な機能がない場合にどうするか、といった課題を検討した
- ④ 実際の使われ方を確認
 - ・ 会期中、アンケート調査や視察時のヒアリングで使われ方を確認した
 - ・ 視察時の当事者からの改善提案に対応した
 - 改善例：手洗いの使い方や扉鍵開閉のサイン設置、アイキャッチの追加、カーテンタッセルの追加、ナビレンスコードの位置調整



ショールームでの確認の様子



プランを考える様子



実物大図面での確認の様子



視察の様子

プランの特徴

- ・ 入口は一つ、空間も一つの男女共用トイレ
- ・ トイレブースは機能分散の考え方で設定。男性小便器と女性用ブースも機能のひとつとして設置

運用の工夫

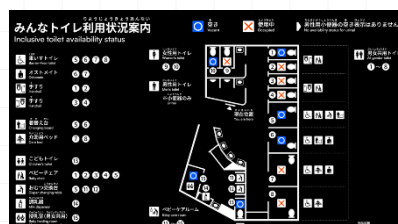
- ・ 機能分散したトイレブースを選びやすいように、トイレブースの扉の横にピクトサインを設置、満空表示モニターにもピクトを表示
- ・ 混雑時には空いたトイレブースをゆずりあってもらえるように、満空表示モニターとみんなトイレの想いを伝えるコンセプトボードを設置



みんなトイレのプラン



トイレブースのピクトサイン



満空表示モニター



コンセプトボード

④ 取組のシンボル「みんなトイレ」

●みんながいっしょに楽しめる展示

- ・メイン体験となるリボン体験を誰もが快適に楽しめるよう「ミライのライド」「カラダ測定ポッド」「展示ブースのサイン」について原寸大モックアップを用いて検証
- ・「ミライのライド」は最適な乗車人数を検討し、こどもや車椅子使用者等目線の違いに配慮したモニターの高さや字幕表示の位置を確認し設定
- ・「カラダ測定ポッド」はモニターの字幕と音声のわかりやすさを確認、また車椅子使用者や介助者も一緒に入って利用できるようポッドの出入口の幅を広げた
- ・「展示ブースサイン」は誰もが見えやすいよう色文字のまわりに白色背景を設定、サインや説明文の漢字には総てルビを振ることとした



展示ブースサインの変更前後



ミライのライドを確認している様子



カラダ測定ポッドを確認している様子



カラダ測定ポッドのモニター

●ナビレンス※～視覚による情報が得にくい方もいっしょに楽しむために～

- ・展示説明の情報保障や案内・誘導の配慮から UD 推進チームの視覚障がい者から提案のあったナビレンスを導入し、100 カ所以上設置
- ・会期前に 4 名の視覚障がい者と業務受託者で、仮貼りしたナビレンスコードで、コードの読み取りやすさと音声内容が楽しめるかを確認
- ・会期中も来館した視覚障がい者からの提案によりナビレンスコードの設置位置や音声内容を改善



コードの位置を調整している様子



コードの位置を確認する様子

※ナビレンス：スマホのカメラでナビレンスコードを読み取ることで、音声で対象までの距離や解説を聞くことができるアプリ

●UD ひろば

- ・2025 年 8 月、来館者にユニバーサルデザインを意識し考えてもらうきっかけとなるよう、みんなトイレ前に設置していたコンセプトボードに加え、ユニバーサルデザインの取組を紹介するボードと、ユニバーサルデザインへの想いをたまごカードに記入してパネルに掛ける参加型展示を設けた「UD ひろば」をオープン
- ・2025 年 9 月、みんなトイレのコンセプトをより伝えるため「みんなでトイレプラン作成チャレンジ」で使用したパーツや 3 つの班が考えたレイアウトプラン等を追加展示



9 月に追加した展示



UD ひろば

大阪・関西万博 日本館

日本館では、「いのちと、いのちの、あいだに」をテーマに、いのちを取り巻く多彩な「循環」を体感できる建築や展示が特徴である。また、全体を緩やかなスロープでつなぐ円環構造を採用し、誰もが一緒に移動し楽しめる空間を実現した。さらに、基本設計から施行までワークショップを重ね、障がい者を含む多様な当事者から意見を設計・施工に反映し、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの具現化を目指し検討が進められた。

概要

- 敷地面積：約 12,950 m²
- 建築設計：日建設計
- 施工：清水建設
- UDWS 参加者：学識経験者、障がいを持ちながら活用している有識者、LGBTQ、子育て支援の有識者等



主な取組内容

参加メンバー

- | | | |
|----------------|-------------|--------|
| 設計段階：学識経験者 7 名 | 障がい当事者 25 名 | 計 32 名 |
| 施工段階：学識経験者 3 名 | 障がい当事者 22 名 | 計 25 名 |
- (身体障がい者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、LGBTQ、各支援団体等)

実施方法・開催数

- | | |
|----------------|----|
| 設計段階：ワークショップ形式 | 6回 |
| 施工段階：ワークショップ形式 | 3回 |
| モックアップ | 2回 |
| 取りまとめ・報告会含む | 6回 |

概略（スロープ、手すり）

- スロープ・踊場の床材の材質や色について三和土の表面を滑らかにし、勾配に変化が付くスロープの上下端に濃い色の三和土をライン状に入れることで視認できるようにするなど改善
- 手すりは夏場の暑さ対策も考慮しフィルムシート貼りとし、手すりは、握りやすさ、使いやすさを考慮
- 円形回廊の手すりについては、身体を支える役目のほかに、レールガイド、ラインガイド（後述）と併せて視覚障がい者の誘導のための役割をもっており、回廊内に連続して敷設



スロープ入口付近

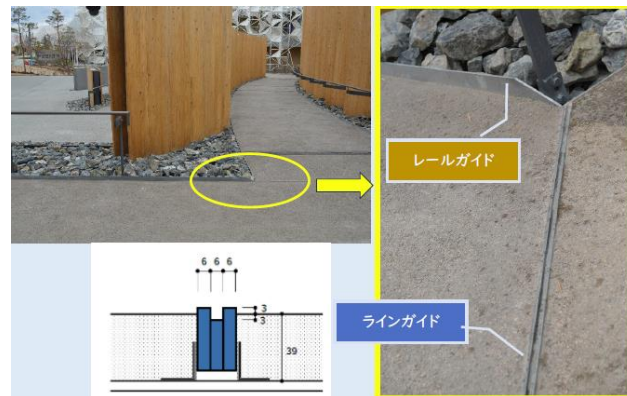


回廊の通路部分

出典：大阪・関西万博日本館
(仮称) 整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（レールガイド・ラインガイド）

- 日本館の円形回廊では、視覚障がい者が一人で移動可能な移動空間をめざして、誘導ブロックに代わる誘導機能を持たせた、新たな「レールガイド」「ラインガイド」を設置
- 「レールガイド」は、円形回廊にそった手すりの下部に、高さ5cmの金属の板を設置し、視覚障がい者が白杖を添わせて移動方向を確認できるものとして設置
- 「ラインガイド」は、レールガイドが途切れる通路の渡りの部分等に高さ3mmの金属の突起を2列で敷設し、連続性を確保。ラインの隙間に白杖を当てるようにして誘導



出典：大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（視覚障がい者用誘導ブロック）

- 敷設範囲の色は黄色で統一
- 誘導は箇所により線状・点状ブロック、係員、手すり・レールガイド・ラインガイドと設定
- 避難階段、トイレの触知図案内板の床に点状ブロックを敷設
- スロープについて意見にもとづき、点状ブロックは設置せず弱視者等のためにスロープの端の色を変えることで、視認を高めるよう改善



出典：大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（授乳室）

- ベビーベッドの直上の照明は光が直接目に入らない位置に調整



授乳スペース



授乳スペース

（出入り口は鍵がかけられるアコーディオンカーテン）

出典：大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて



概略（トイレ）

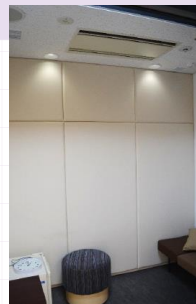
- 『できる限り多くの人々が利用しやすいトイレ』を目指してタイプの違うトイレを用意し、全体として多様な人が使いやすいバランスで配置し、日本館周辺エリアのトイレが受け持つ機能も考慮したタイプを計画
- 車椅子対応便房に姿見を設置（計5箇所）
- バリアフリートイレの大型ベッドは車椅子利用者が操作しやすい跳ね上げ式に変更、洗面台の手すりの間の幅を 550mm に変更し、肘を支持できるように改善し、実際にモックアップで 550mm が問題なく使いやすいことを確認
- 壁付リモコン類と壁は同系色をやめ、リモコン背景を3種類で整理を行いリモコンの認識がしやすいように改善
- 個室型男女共用便房の手洗いカウンターの形状を台形から丸みのある三角形に変更、他の設備も調整し、トイレブース内の使い勝手を改善
- 呼出ボタンは日本館周辺施設と種類や配置を統一
- フック位置は出入口扉のブース内側に統一して設置し安全に配慮した形状とした
- 扉の仕様は全開時ストッパーを整備、軽い力（UD ガイドラインの 30N 以下）で開閉可能とし、バリアフリートイレの内部側に補助手すりを設置
- 通路は幅がある程度広く、T 字路部に誘導スタッフを配置するため鏡の設置は無しとした



出典：大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（カームダウン・クールダウンルーム）

- 内装の仕様は柔らかいクッション材を採用
色はウォーム系の薄いグレーとした
- 照明は部屋の利用者が調光可能な照明を設置



カームダウン・クールダウンルームの内装の様子

出典：大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（その他）

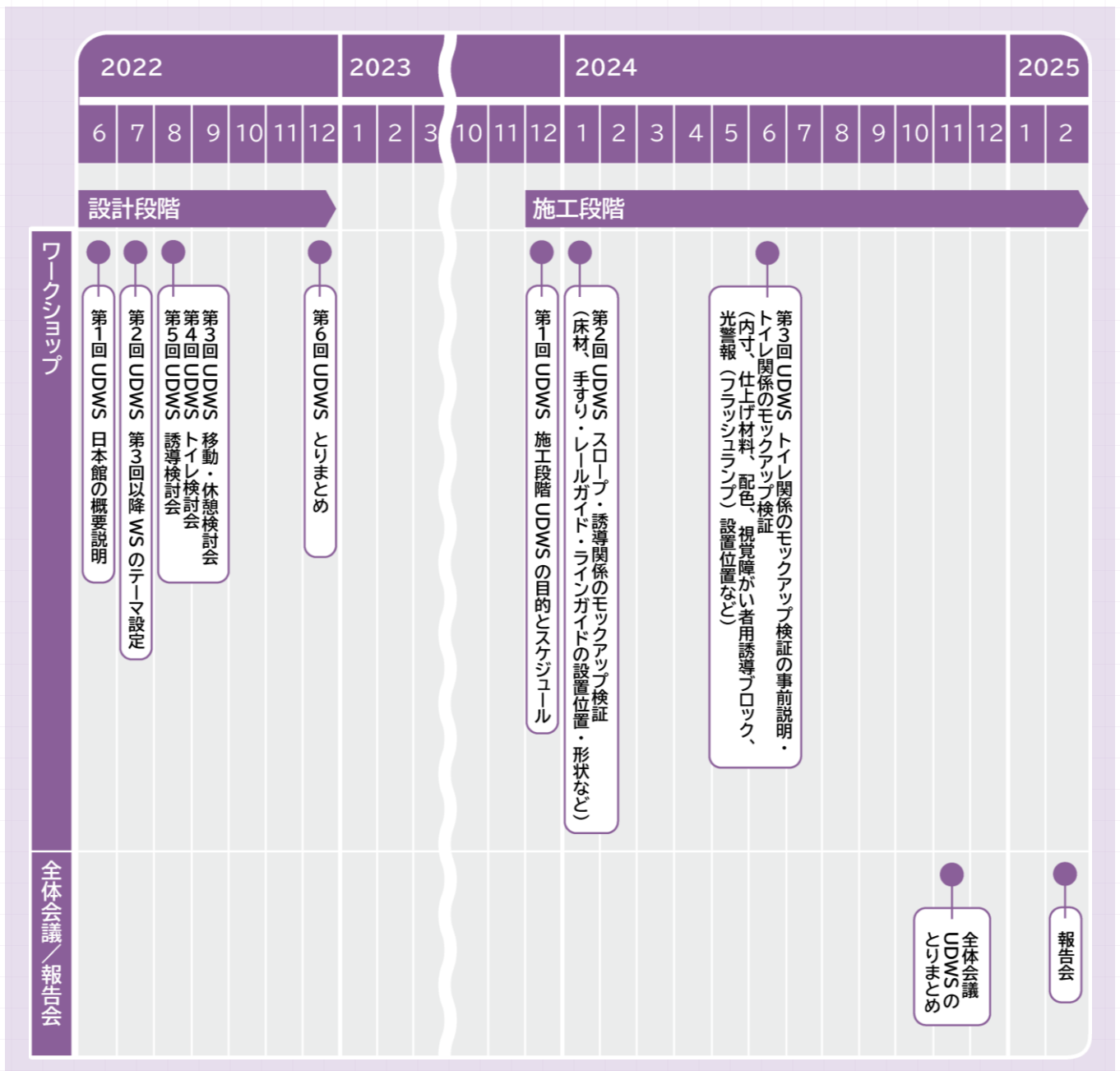
- 床面点字に関してはトイレの広さや、色彩計画でコントラストをつけているため、ある程度認識できると思われるという意見から設置はしない
- フラッシュランプ点灯の説明文を掲示
- トイレブースと通路、カームダウンクールダウンルーム、授乳室にフラッシュランプを設置
- 非常時にはスタッフによる避難誘導がなされるため、文字情報による表示は行わない



フラッシュライト点灯の説明文

出典：大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

スケジュール



事例 スロープ、誘導関係

POINT

- 基本設計から施工まできめ細やかに当事者とワークショップを実施し。様々な障がい者等から意見を聴収し、それを設計・施工に反映した。
- 誰もが一緒に移動し、同じ空間を楽しめるよう、会場全体を緩やかなスロープで連続的につなぐ設計を採用した。
- 来館者が円形の回廊を入口から一方向で移動し、進行方向へ一筆書きの歩行ルートにそって、視覚障がい者誘導ブロックに代わる、視覚障がい者の誘導機能を持たせた日本館独自の新たな試みとして、「レールガイド」と「ラインガイド」を設置した。

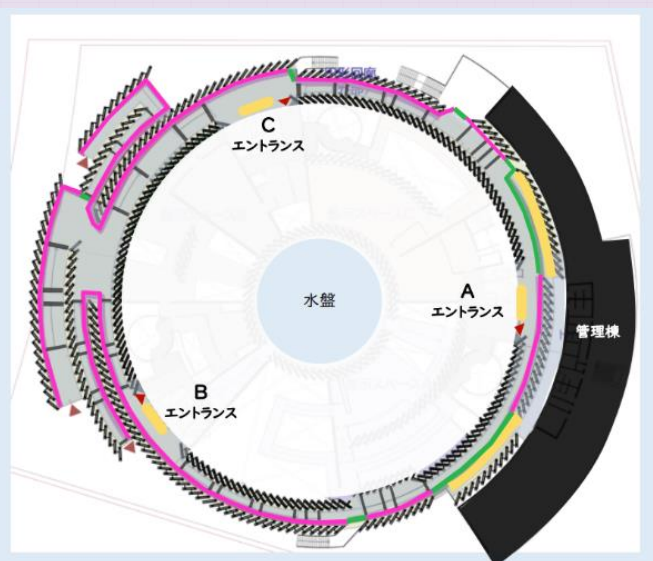
UDWS の意見等に基づく施工内容

施設・設備等	ご意見	施工内容（UD への配慮事項）
勾配	・ 5%で通行に問題はない（参加者共通意見）	・ スロープの勾配は設計当初から 5%を前提として、多様な人が同じように使いやすくしている
床材	・ 三和土のざらつきは足が不自由な人、高齢者等にとって、つまずきやすくなる	・ 床材は自然性が高く、リサイクルしやすい三和土を採用している。三和土の表面を滑らかにし、車椅子、高齢者、片麻痺の人等がつまずかないようにする
床の色	・ スロープと踊り場の微妙な色の違いや表面仕上げの違い（なめらか・ざらざら）はわかりにくい	・ 設計段階は 5%勾配のスロープと踊り場を三和土の表面仕上げで区別するよう計画していた（点状ブロックの敷設は不要と確認していた）。 ・ 施工段階の検証の結果、表面仕上げの違いではなく、スロープの上下端に濃い色の三和土をライン状に入れることで視認できるようにする。

ワークショップを実施する際には、特に視覚障がい者にどうやって理解してもらうかという点において、立体模型や立体コピー図を作成し、実際に模型を触ってもらいながら構造等について理解していただいた。



床材(滑らかな箇所とざらざらの箇所)



床面の色、レールガイド、ラインガイドの設置位置

出典:大阪・関西万博日本館(仮称)整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて
<https://www.kkr.mlit.go.jp/build/policy/other/qgl8vl00000000eer-att/nihonkan.pdf>

関西国際空港

関西国際空港は1994年に開港され、国内有数の国際線・国内線のネットワークを提供する国際拠点空港である。関西国際空港では、誰もが安心して利用できる空港を目指して、段差のない旅客搭乗橋の導入等のバリアフリー化に積極的に取り組んでいる。これらの取組にあたっては、当事者も含めて検討会や見学会を複数回開催し、対話しやすい環境づくりを心がけながら、課題の本質を追求し、真に必要なものを見極め、利用者にとってより快適で安全な空港づくりを進めている。

概要

- 所在地：大阪府泉南郡田尻町
- 面積：1期空港島：約510ha 2期空港島：約545ha
- 航空旅客数：約30百万人/年



主な取組内容

参加メンバー

学識経験者、各障がい者支援団体、施設管理者、自治体、移動等円滑化評価会議近畿分科会等

実施方法・開催数

検討会 全8回 現地見学会 全5回

フォローアップ会（EVモックアップ検証、トイレモックアップ含む）全14回

概略（階段）

- 2段手すりの設置

概略（カームダウン・クールダウンスペース）

- 国際線の保安検査手続き後の北側に1カ所、国内線の保安検査手続き前後に1カ所ずつの合計3カ所に設置



出典：第3回移動等円滑化評価会議 近畿分科会



出典：関西国際空港 HP

主な取組内容

概略（一般トイレ）

- 近隣に授乳室がある場合は、バリアフリートイレ内へのベビーシートの設置を取りやめ、機能分散を実施
- 一般トイレに車椅子で利用可能な個室の設置→奥行寸法を、1900～2000mm に広げる
- 足元スペースの確保や洗面鏡高さを変更する等、車椅子対応の洗面台を設置
- 個室ブースの工夫として、折れ戸の表裏の色を変えて、使用中か一目でわかるようにする。
- フラッシュライトの設置
- トイレ入口に音声案内の設置
- トイレ入り口のピクトグラムの変更



トイレモックアップ検証会の様子①

出典:第4回 移動等円滑化評価会議
近畿分科会

概略（バリアフリートイレ）

- 男女共用できる位置に設置（異性介助者等への対応のため）するなど、レイアウトを検討
- 便座に座っている状態や転倒時でも対応できる位置に緊急呼び出しボタンを設置
- 開閉スイッチを押しやすい位置に設置変更
- 荷物掛けフックを利用しやすい高さに変更



トイレモックアップ検証会の様子②



トイレモックアップ検証会の様子③

出典：第4回 移動等円滑化評価会議 近畿分科会

概略（エレベーター）

- かごサイズの見直し。検証の中で4台同乗が可能と判明し、カゴのサイズの大型化・出入り口を拡幅した。
- 緊急時に文字通話ができる2次元バーコードを整備



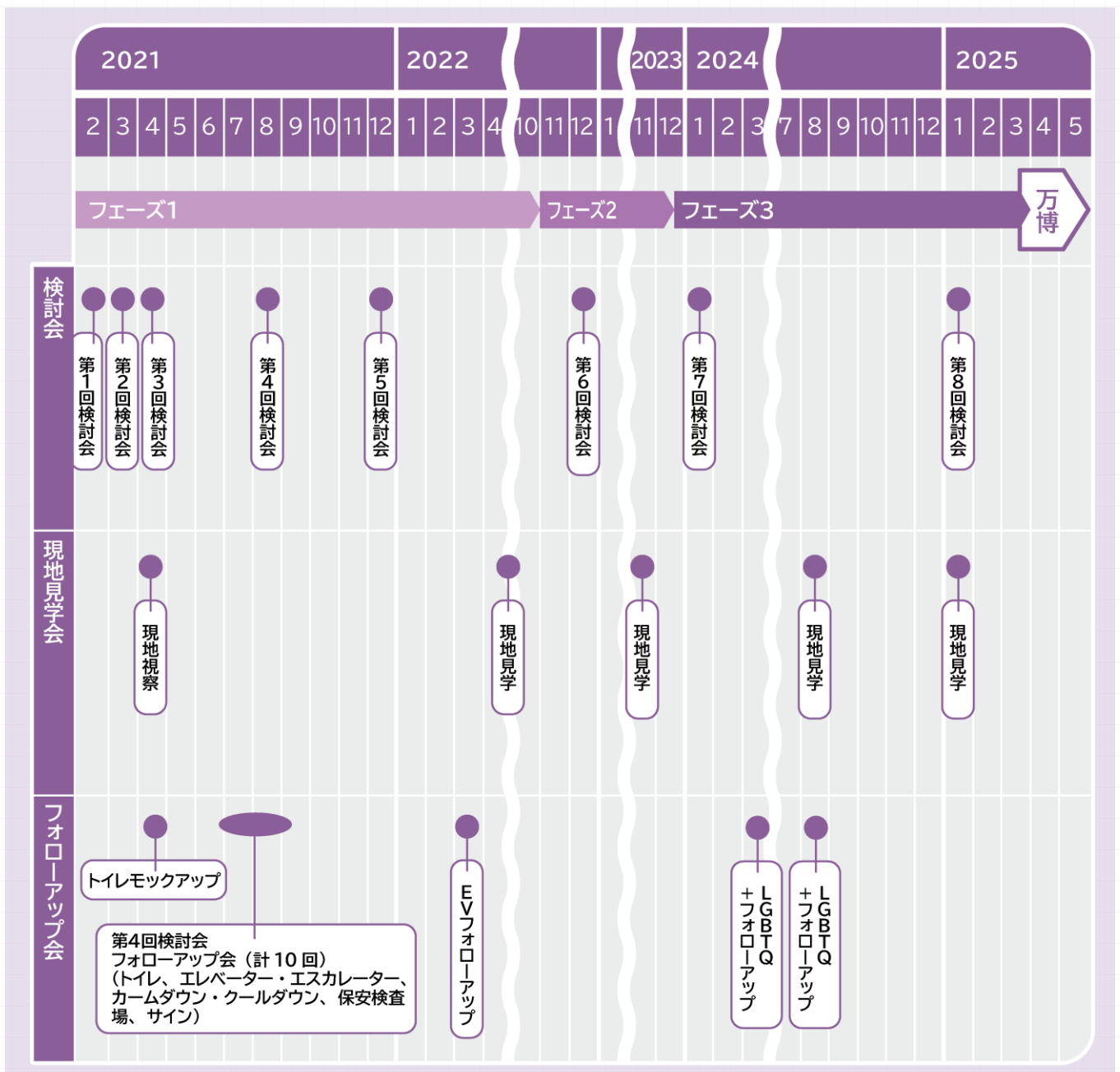
EV モックアップの様子①



EV モックアップの様子②

出典：第4回 移動等円滑化評価会議 近畿分科会

スケジュール



事例 エレベーター緊急通報システム

POINT

- 対話しやすい環境づくりを心がけ、それぞれの課題に対して、当事者間での意見交換を含め、話しやすい場をつくる工夫を行ったことで、課題の本質を追求し、本当に必要なものは何かを導き出した。（全体会議だけでなく、小規模でのフォローアップ会議の開催）
- 対面とWEBを併用したことで、より多くの方に検討会やフォローアップ会に参加していただいた。

エレベーター緊急通報システムの設置までの主な検討の流れ
(意見への対応が難しい中、代替案を検討した事例)

1

EV に緊急時の音声通話装置だけでなく、緊急時対応のモニターがほしい

2

- ・全EVに設置すると多額のコストがかかってしまう…
- ・過去実績からEV内閉じ込めが発生する頻度は年1回程度

意見交換会を重ね、
課題の本質を追求

3

モニターがあることが重要ではなく、緊急時に聴覚障がい者が使用できる連絡手段が必要

4

緊急時にチャットで連絡できるシステムを構築

エレベーター監視室と繋がる二次元バーコード



出典：関西国際空港ホームページ



参考：関西国際空港 提供資料より作成

大阪府豊中市

市有施設の整備事業における当事者参画

大阪府豊中市では、市有施設の建設時において、早い段階から当事者の意見を取り入れ、基準以上のユニバーサルデザイン化を推進し、使い勝手の乖離解消や課題の明確化等を図り、効率的な整備と、参画を通じた地域のバリアフリー推進の人材育成につなげている。

豊中市の概要

- 所在地：大阪府 豊中市
- 面積：約 37 km²
- 人口：398,183 人（令和 7 年 12 月 1 日現在）
- 世帯数：182,839 世帯（令和 7 年 12 月 1 日現在）



主な取組内容

背景

バリアフリー法や大阪府福祉のまちづくり条例等の基準を満たした施設であっても、実際の利用では、設備や管理運営方法が不便で、円滑に使えないという声を当事者からいただくことがある。

目的

施設を整備する際、事前に当事者の意見を取り入れ、設計や施工段階から反映すること、市民がより使いやすい整備を実現する。

当事者参画の意義

- ユニバーサルデザイン（UD）化を指向した整備
- 基準と当事者の「使い勝手」の間に生じる乖離を確認
- 多様な当事者の様々な意見から課題を整理
- 早い段階からの当事者参画による手戻りが少ない効率的な整備
- 参画を通じた地域におけるバリアフリー推進の人材育成

当事者参画の仕組みづくりに向けた課題の整理

- 当システムの位置付け
- 対象となる施設及び規模
- 意見を聴く対象者と実施時期
- 意見の反映と蓄積
- 現行のバリアフリーチェックシステムとの区別

（仮称）バリアフリー化検討会の設置（案）

目的

市の施設を整備する際には、誰もが安心して利用できるよう、バリアフリー法令に加えてユニバーサルデザインの考え方を取り入れます。そのため、事業を始める前の計画段階から、多様な利用者の意見を聞くために必要な事項を定めます。

位置付け

市の全体的なバリアフリーの方針を示す「豊中市バリアフリーマスタープラン（移動等円滑化促進方針）」に基づいて、バリアフリー化に関する当事者や利用者の意見徴収を実施します。

構成

市の関係部局、事業者、目的に賛同する市内の当事者団体や個人で構成します。

チェックを行う当事者

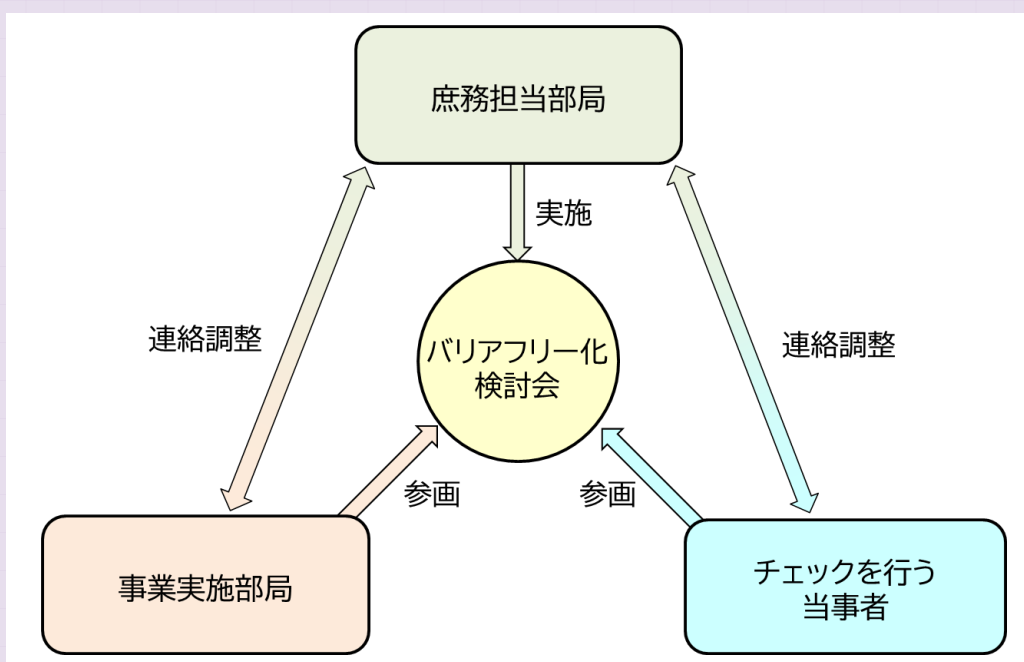
市内の障害のある人・乳幼児連れ保護者等を選任します。

対象事業

○道路、公園：対象規模については検討中

○建築物：不特定多数の利用が多い施設（床面積 2,000 平方メートル以上）の新築・増築をする部分を対象（地域の子育て支援施設等小規模な建築物についても、当事者の利用実態に応じて検討。）

※その他、事業者申請に応じて当事者参画を実施するバリアフリーチェックシステムを運用中



検討会の進め方（イメージ図）

参考：豊中市 HP バリアフリー推進協議会 資料

兵庫県 チェック&アドバイス制度

兵庫県では、福祉のまちづくり条例に基づき、病院や商業施設等、多くの人が利用する施設（特定施設）に対し、県が登録する「福祉のまちづくりアドバイザー」をあっせんし、利用者の目線で施設整備や管理運営を点検・助言する「チェック&アドバイス制度」を設けている。

兵庫県の概要

- 所在地：兵庫県
- 面積：約 8,400 km²
- 人口：5,304,127 人（令和 7 年 12 月 1 日現在）
- 世帯数：2,477,443 人（令和 7 年 12 月 1 日現在）

主な取組内容

目的

多くの人が利用する病院や商業施設等（特定施設）において高齢者等の安全性や利便性を確保するため、利用者目線から点検・助言を実施することで、質の高い福祉のまちづくりを推進する。

対象施設（※詳細は次頁を参照）

- (1)点検・助言型：兵庫県内の特定施設。
既存施設（改修設計時、管理運営の改善検討等）のほか、新築施設（設計段階）も対象
- (2)点検表型：上記(1)の特定施設のうち、次頁の表に記載の既存施設

実施方法

施設管理者等が県に制度利用を申請すると、県は登録された福祉のまちづくりアドバイザーをあっせんする。アドバイザーは現地で施設の整備状況や管理運営を利用者目線で点検し、改善のための助言を行う。その後、点検結果と助言内容を報告書としてまとめ、申請者に提供する。



チェック&アドバイス制度の概要

出典：兵庫県 HP チェック&アドバイス制度

福祉のまちづくりのための施設整備バリアフリーガイドライン《本編》

- 施設のバリアフリー設計、維持管理時の配慮事項等をまとめた指針として、条例に基づく義務基準の解説に加え、望ましい基準や事例等を紹介しています。



当事者参画によるバリアフリー取組事例集

福祉のまちづくりのための施設整備バリアフリーガイドライン《別冊》

- 施設の設計、維持管理・運営等の各段階において当事者意見の反映を促進するため、当事者参画で進められたバリアフリー化の取組事例を紹介しています。



おおさかユニバーサルデザインマップ【現在制作中】

- ウェブ上で施設のバリアフリー情報を見ることができるポータルサイトです。
【事業者様向け】ホテルやお店のバリアフリー情報を掲載できますので、ぜひご覧いただき、情報の登録にご協力ください。



〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 咲洲庁舎27階
TEL 06(6210)9717 / ファックス 06(6210)9714
メールアドレス kenchikukankyo-g02@gbox.pref.osaka.lg.jp
ホームページ https://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_kikaku/fukushi_top/
(おおさかのあたりまえ/福祉のまちづくり)
都市整備部 住宅建築局 建築環境課 住環境推進グループ

平成28年4月	初版	発行
平成29年1月	初版第2刷	発行
平成29年12月	第2版	発行
令和2年3月	第3版	発行
令和5年5月	第4版	発行